

①例えば簿記などの資格を取得した場合、財務や経理の部署に異動を希望することは可能でしょうか。

→年に一度提出の機会を設けている身上調書において、資格の取得状況や今後希望する業務について申告する項目がありますので、簿記等の資格を取得された場合には、その内容とあわせて、財務部や教育研究組織の事務部における会計担当部署等への配属希望を申し出ることができます。

ただし、本学では特に若手職員について、概ね2～3年ごとに異動しながら様々な部署で経験を積み、大学職員として幅広い知識やスキルを身に付けていただく人材育成を行っています。また、各職員の希望や適性に加え、大学全体の人員配置等を総合的に考慮して配属を決定するため、必ずしも希望通りの部署への異動が実現するとは限りませんのでご承知おきください。

②附属校など初等教育・中等教育に関わる業務はありますか。

→本学には附属学校が5校あり、これらの学校に関わる業務があります。

附属学校に関する事務は、今年度より学務・国際戦略部の初等中等教育支援室が所掌しており、5校全体の運営に関する調整や取り纏めを行う教育支援系のほか、各附属学校の現場で直接業務に携わる、学校支援第一係、学校支援第二係、学校支援第三係の部署が設置されています。

③大学職員を志望した動機を教えてください。

→大学職員を志望した動機は職員により様々ですが、国立大学法人等職員採用試験からの採用者の場合、公務員試験について調べていた際に、国立大学法人という選択肢を知ったことが最初のきっかけだったという人が少なくありません。

大学職員というと、学生時代に接する機会のあった窓口の職員のイメージを持たれる方が多いかと思いますが、実際には学生支援だけでなく、研究支援、地域連携や国際交流、そして組織運営を支える総務、財務、情報、施設等の幅広い業務があります。

大学は未来を担う人材を育成する教育機関であると同時に、最先端の研究を推進する機関でもあります。そのような活動を支える仕事に携わることで、社会の発展に貢献できるという点に魅力を感じ、大学職員を志した職員も多いと考えています。

④数ある大学の中で横浜国大を選んだ理由を教えてください。

→神奈川県唯一の総合国立大学として、実学的な色彩の濃い幅広い学問分野を有し、文系・理系の垣根を越えた教育・研究活動が行われている点に魅力を感じた職員は多いと思います。

また、横浜という国際性と多様性に富んだ地域に立地していることから、様々なバックグラウンドを持つ学生や教職員が集まっており、風通しの良い雰囲気があることも本学の

特徴の一つです。

更に本学はキャンパスが一つに集約されているため、部署異動があっても原則として転居を伴うことがなく、教職員間の連携も取りやすいなど、落ち着いて働くことのできる環境が整っています。

一口に国立大学といっても、それぞれに特色や校風がありますので、ぜひ実際にキャンパスへ足を運んで大学の雰囲気を感じながら、ご自身に合った職場かどうかを確かめていただければと思います。

⑤横浜国立大学だからこそ取り組むことができる仕事内容がありますでしょうか。

→「都市型国立大学」である本学の特色を活かし、地域や社会が抱える課題の解決に間接的に関わることができる点が挙げられると思います。

本学は、横浜という日本有数の都市に立地しながらも、地域に開かれた大学として、自治体や企業、地域社会と連携しながら教育・研究活動を展開しており、都市が抱える現実の課題に関わっています。

また、視野を神奈川県全体に広げると、都市部から山間部、沿岸部まで、日本の縮図ともいえる多様な地域特性を有しており、そのすべてが本学の教育・研究活動のフィールドとなっています。

このような活動を支える立場として、自身の仕事が地域や社会の持続的な発展に貢献していることを実感しやすい環境にあると感じています。

⑥入職前と後でギャップを感じたことはありますか？

→入職前後のギャップとしてよく聞くのは、業務の幅が想像以上に広がったという声です。大学職員というと、学生に関わる業務が連想されがちですが、実際には教育・研究支援の他にも大学運営に関わる様々な業務があり、一つの組織の中で、想像していた以上に幅広い経験を積めることに驚いたという職員もいるようです。

また、大学は比較的落ち着いた、あるいは少し固い職場というイメージを持たれることもありますが、日々変化していく社会情勢や制度改正等への対応に加え、新規プロジェクトへ参画する機会も多く、良い意味で変化に富んだ職場だと感じることもあるかもしれません。

本学には前例を踏襲するだけでなく、若手職員の意見や提案も積極的に取り入れようとする風土があり、多様な業務経験を積みながら自ら考え行動し、成長していくことのできる環境だと思っています。

⑦様々な部署を経験していく中で、仕事の内容は一見異なるけれど、前の部署で体験したことが活かしたことはありますか？

→大学職員の業務は想像以上に幅広いため、部署を異動した直後は「全く異なる仕事になっ

た」と感じることもありますが、経験を重ねるうちに、それぞれの部署で得た知識や経験が活かされていることを実感する場面は少なくありません。

回答者の場合は、学生の経済支援制度、留学生支援業務、大学院の学務・入試担当を経て、現在の人事・労務課に異動してきました。一見すると関連性のない業務にも思われるかもしれませんが、例えば最初の部署で担当した授業料免除の情報を大学院への進学を希望する受験生への説明に活かしたり、留学生支援業務で身に付けた在留資格に関する知識が外国籍の教職員の採用手続きに役立ったりするなど、これまでの経験が現在の業務に活かされていると感じています。

また、制度等に関する知識だけでなく、これまでの業務を通して築いてきた教職員との関係性が仕事に活きる場面も多くあります。大学は様々な部署・職種の人が連携して運営されているため、異動によって担当業務が変わったとしても、それまでの経験や人との繋がりがリセットされてしまうことはありません。むしろ、様々な部署を経験することで、大学全体を多角的に見ることができるようになり、異なる経験を持つ職員同士が協力することで、より良い大学運営を実現できるのではないかと考えています。

⑧専門卒や、高卒で働いている人もいたりしますか。

→はい、専門学校や高等学校卒業後に採用された職員も在籍しています。

令和 8 年度実施の採用試験においては、平成 3 年 4 月 2 日以降に生まれた方が対象となっており、こちらの基準を満たしている方は同じ基準で選考を行います。

⑨面接に関して、必ず対面での実施でしょうか？オンライン等可能でしたら教えて頂きたいです。

→今年度の国立大学法人等職員採用試験合格者を対象とした第二次試験については、対面面接のみを予定しております。

また面接日時についても、採用試験案内ウェブサイト上でご案内している日程での実施となり、個別の事情による日程変更や、オンラインでの面接実施は予定しておりませんので、あらかじめご了承ください。

受験にあたりご不便をおかけする場合もあるかと思いますが、公平・公正な選考を行うため、このような実施方法としておりますので、ご理解いただけますと幸いです。

⑩昨年以前等平均的な応募倍率など分かりましたらお伺いできますと幸いです。

→応募倍率は年度によって採用予定数や応募者数が変動するため、一概にお示しすることは難しいのですが、本学の第二次試験については、概ね 10 倍から 20 倍程度とお考えいただければと思います。